



発行責任者：歯学部長 宮崎 隆，編集責任者：広報委員長 佐藤裕二  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ：<http://www.showa-u.ac.jp>

## 巻頭言 歯周病科

歯周病学教授 宮下 元



学会では、35年も前から「歯周病」学会ですが、未だに「歯槽膿漏」とか「膿漏」とかの呼称で表現されることがあります。1998年「歯周病」が広辞苑に収載されたことを期に、社会の一般用語（マスコミ関係も含めて）になりました。

国内における罹患率は高く、30歳以上では歯周炎も加えると80%以上になっています。この様なことから、不本意ながら歯科疾患で唯一、生活習慣病に認定されてしまいました。この生活習慣では4つのカテゴリーのうち、食生活と喫煙の2つの生活習慣の項目内に挙げられています。

一方、重度の歯周病と糖尿病および低体重児出産との高い相関が確認されています。糖尿病の者が歯周病(感染症)に罹患し易く、不十分な血糖コントロール者では早期に重度進行することも日常的に経験していることです。しかし最近では重度歯周病を治療することで、血糖値が低下することが実証されています。ヘビースモーカーと歯周病の症状、治療後の治癒不全についても、多くのエビデンスが得られています。

歯周病科では、この様に多くの因子を持った患者さんをなんとか改善、治癒させるための治療を行っていますが、治療後の形態不全の審美的回復や、より高い予知性を求められる再生療法などの要求も強くなってきました。皆様からの多くのご要望に答えられるよう医局員一同、精力的に頑張っていますので、治療上の要求を数多くお待ちしております。

## 4大学交流会に参加して

学部長 宮崎隆

本歯学部は昨年度から北海道医療大学歯学部、岩手医科大学歯学部、および福岡歯科大学と4大学交流を発足させた。第1回の会合を本学で2月に開催し、各大学の最新カリキュラムを始め大学改革の現状について情報交換をした。去る8月19-21日に三島で開催した第9回歯学教育者のためのワークショップには、各大学から臨床実習に経験の深い教員が1名ずつ参加し、有益な交流ができた。



この度8月23-24日には、盛岡市の岩手医科大学において、第2回4大学歯学部交流会が開催され、本学からは佐藤裕二教授、上條竜太郎教授、長谷川篤司助教授と私、そして教務課の栗田晃課長、小野沢国男課長補佐が出席した。

始めに「4大学交流会発足にともなう申し合わせ」について、本学から提案した案をもとに協議した。継続して各大学の教育と研究の向上、発展を図るために、あまり堅苦しくしないで、実施できることから交流を続けていく方針を確認した。学部学生の交流については各大学のカリキュラムが異なるので難しい点もあるが、本学の選択実習案を紹介し、平成19年からの相互乗り入れを提案した。大学院生の単位の互換や、研修医の相互受け入れ、さらに、今回のワークショップ参加のような教員の研修等はすぐに実施できそうであった。また、試験問題やPBLパッケージ等の教育資料の共有化も今後進めていくことを確認した。

今回の各大学からの講演のテーマは「卒前臨床実習から卒後臨床研修への取り組み」であった。本学では7月に総合診療歯科の長谷川科長を選任し、18年度の必修化にむけて次年度はトライアルをすべく準備を進めている。一方、卒前臨床実習については三島のワークショップでできたプロダクトを教育委員会で至急検討して学部案としてまとめる作業が残っている。他大学では本学の歯科病院に比べて外来患者数はかなり少ないものの、工夫をして診療参加型の臨床実習および充実した卒後研修を目指した体制作りが先行している感じを受けた。本学においても他大学と連携しつつ個性ある臨床実習、研修ができるように整備していきたい。

## 学会開催のお知らせ

- 南雲正男会長(顎口腔疾患制御外科学教授)：  
第41回日本口腔組織培養学会総会，2004.11.20，新高輪プリンスホテル，  
問い合わせ先：baiyo@senzoku.showa-u.ac.jp，準備委員長：岩瀬正泰先生





- 川和忠治病院長 NHKラジオ「くらしの電話相談」, 13:50から(8/30, 10/12, 11/30, 1/27, 2/28)  
<http://www.nhk.or.jp/radiodir/hot/denwa.html>

## 歯学研究科(期)出願締切近づく!

大学院運営委員会委員長 立川哲彦

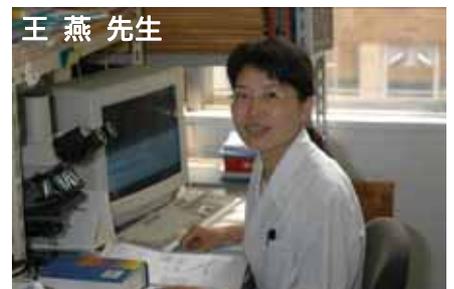
	試験日	出願期間	合格発表	入学手続	入学辞退締切
期	平成16年 9月25日(土)	平成16年7月12日 ~ <b>9月10日</b>	平成16年 10月21日(木)正午	平成16年10月22日 ~ 10月29日	平成16年 10月26日(金)
期	平成17年 2月19日(土)	平成17年1月6日 ~ 2月10日	平成17 年 3月9日(木)正午	平成17年 3月10日 ~ 3月17日	平成17 年 3月31日(木)

今回より従来の一般選抜の他に、社会人特別選抜が設定されました。これは社会人(研修医を含む)が夜間、土曜日、夏休みに教育を受け、学位取得を目指すものです。語学試験も同時に行われます。詳細につきましては、教務部にお問い合わせください。

## 講座の海外交流

口腔病理学講座 立川哲彦

本講座には現在、大連医科大学(中国)の口腔外科学講座から王燕(Wang Yan)先生が2年間の予定で唾液腺腫瘍の遺伝子解析研究のために留学されています。2年前に私が大連医科大学に「口腔癌の遺伝子解析」というテーマで招待講演を行いました。そのおり、中国でも口腔疾患の遺伝子解析を取り入れた研究を早く実施したいとの希望が強く、遺伝子解析手法や口腔疾患と遺伝子異常について多くの質問が寄せられました。特に、大連医科大学では年間約250症例の唾液腺腫瘍があり、その遺伝子解析を求められました。昭和大学での唾液腺腫瘍は年間十数例で、悪性唾液腺腫瘍は年間2ないし3例というのが現状であり、年間250例とは非常な驚きです。中国は人口が多く、一極集中型の病院がありますが、この症例数は日本での発生率と比較しても異常な多さです。政府の疫学学者も私の講演を聞いており、疫学的な質疑であったので、その学者との話でも大連地域は唾液腺腫瘍が多く、その原因は不明とのことでした。帰国後、早速3年分の唾液腺腫瘍の標本が送られてきましたが、中国では十分に免疫染色などの検索が行われておらず、全ての標本を診断するにはいたりませんでした。また、WHO分類による診断も十分でなく、私自身初めて見る組織像などがあり、なんと診断して良いか解からない症例もありました。そこで、あらためて診断と遺伝子検索もしようということとなり、大連医科大学より王先生が留学されて、研究が開始されました。中国の症例はその数の多さで、日本は及びませんが、その豊富な症例を日本の新しい研究法で共同研究することで口腔疾患の解明につながればと思いい研究を続けています。本年度は北京の首都医科大学との口腔癌の共同研究も開始される予定です。



王燕先生

もう一つの海外交流はドイツのPALM社との共同研究です。8月1日にドイツを訪れ、講演と研究打ち合わせを行ってきました。PALM社は組織薄切標本からレーザーを使い標的病変細胞を切り取り、回収する方法を開発した会社です。本講座ではこの少ない細胞(100から200個の細胞)からRNAを抽出する方法を開発し、口腔癌の遺伝子解析を行うことができましたので、一連の遺伝子解析法を開発しようということで共同研究が始まりました。現在、RNA, DNAばかりでなく、少ない細胞(約500個)から蛋白解析が可能であることを見出しましたので、癌細胞における蛋白発現の特徴を捉えようと検索しています。これが確立されれば病変を切除して病理組織的に診断する必要が少なくなり、病変の少しの細胞で診断、薬物治療時の薬の選択、治療計画の選択、予後判断、しいては創薬などに応用できるものです。

## 平成16年度共用試験歯学系OSCEトライアル

OSCE委員長 榎 宏太郎

期日：平成16年9月25日(土)

実施内容：初診面接1課題，説明指導1課題，診察および技能系4課題

対象：D5学生 89名(登院前)

参加人数：評価者・補助者・SP役他130名(外部評価者18名含む)

平成17年度から、臨床実習開始前の評価のための共用試験システムOSCE(Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験)が正式に実施されます。これは、歯学部学生が臨床実習に参加するに足りる知識・技能・態度をそなえているかを客観的に評価することを目的として、共用試験実施機構によって実施されるものです。知識に関してはCBTで、態度・技能についてはOSCEにて評価されますが、OSCEでは、各大学が相互に外部評価者を乗り入れることで全国共通の「ものさし」で評価するシステムとなっています。今回のトライアルは、平成17年度の正式実施を全て想定した内容で厳正に実施されますので、皆様の御協力をお願い申し上げます。



## 第9回昭和大学歯学教育者のためのワークショップ

ワークショップ 委員長 佐藤裕二

8月19日～21日、歯学部教育委員会（岡野委員長）の主催で「卒後臨床研修を見据えた臨床実習のあり方（アドバンスコース）」が理事長、学長のご出席のもと、東レ総合研修センター（三島市）にて開催されました。宮崎歯学部長の挨拶の後、26名の参加者が4グループに分かれ、新カリキュラムに対応した臨床実習のあり方について熱のこもった討議が行われました。今回はアドバンスコースであり、ワークショップ委員会（佐藤委員長）のメンバーも、委員長以外は討論に参加しました。また、四大学交流の一環として、北海道医療大学・溝口到教授、岩手医科大学・國松和司教授、福岡歯科大学・廣藤卓雄教授も参加して頂き、新鮮な視点でのご意見をいただきました。招待タスク（高木教授・医学教育推進室）による「昭和大学医学部の新カリキュラムに基づいた臨床実習について」の講演、長谷川総合診療歯科科長による「新しい歯科臨床研修について」の説明も行われました。最後に奥田弘美先生（メディカルサポート研究会代表、精神科医師）によるメディカルサポートコーチングについてのロールプレイ形式の研修も行われました。今回のプロダクトは新しい臨床実習の礎になる予定です。関係各位のご協力に深く感謝致します。



## 中国ウルムチの学会に参加して

学部長 宮崎隆

中国新疆ウイグル自治区の州都であるウルムチで8月10-11日に開催された中国歯科色彩学会に、日本歯科色彩学会片山伊九右衛門会長（明海大学名誉教授）、下河辺宏功明倫短期大学学長と一緒に参加する機会を得た。北京から明海大学と姉妹校である北京大学の口腔医学院修復学講座と人民医院口腔科の医局員約20名と一緒に、敦煌を経てウルムチ入りし、1週間中国の先生方と交流を深めてきた。

中国は経済成長が著しく、学会は観光地に繰り出すのがブームで、ウルムチも人気のある都市である。ここは、シルクロードの中継地で、ウイグル族、カザフ族、回族を始め多くの民族のつぼで、イスラム色の強いまさに中国人にとっても異境である。現地の新疆医科大学には、日本からも人類学的な調査に訪れているようである。

学会は人民解放軍の総病院の口腔科が担当であった。現地の歯科医師を含めて100名以上の参加があり、北京大学や西安の第4軍医大学の教授による教育講演を含めて、参加者は熱心にメモをとりながら聴講していた。北京大学は中国でも最難関の大学であるが、若い歯科医師も非常に向学心に富み、海外の歯科事情にも精通していた。設備や材料はドイツ製が主流であり、残念ながら日本製は遅れをとっているようであった。経済力が高まるにつれて、審美補綴やインプラント、矯正などの患者が急速に増えている。

学会の前後には熱烈歓迎で、いろいろな観光地へ連れて行ってもらった。敦煌の世界遺産の仏教遺跡（石仏）の見学、天山山脈の牧場での乗馬、孫悟空の火焰山でのラクダ、さらに村の宴席での白酎（アルコール度50度！）の一気飲み（コップではなくドンブリ）など、貴重な経験であった。



## 禁煙・分煙

旗の台校舎では原則的に禁煙ですが、一部では喫煙ができるように、分煙制度が9月1日から実施されました。歯科病院職員通路は9月1日から禁煙になりました。ご協力をお願いいたします。



## 教職員の声

広報委員長 佐藤裕二

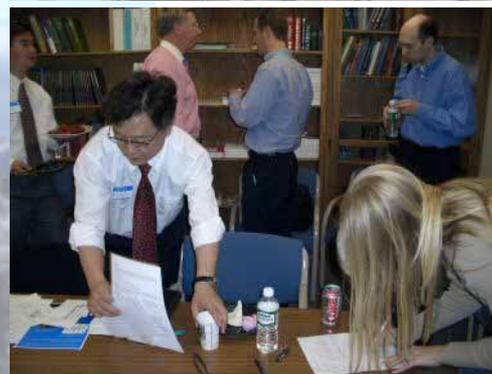
教職員の皆様からの声をお待ちしております。 [sato@senzoku.showa-u.ac.jp](mailto:sato@senzoku.showa-u.ac.jp)まで。

8月23日から26日まで、本学歯科矯正学教室とカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 歯学部矯正科との学術交流が行なわれました。UCSF側から "Japan-United States Orthodontic Student Research Summit" と名付けられた本会は、両教室にとって初めての試みでしたが、総勢27名(本校から5名)のDrが参加し、三日間に渡って各自の研究発表や外来見学など活発な交流がなされました。

本校から参加したDrは、自分の英語が通じるかどうか、かなり緊張して当日に臨みましたが、UCの卒後間も無いDrが臨床や研究に対してかなりしっかりした自分の意見を持っていることや合理的な外来運営に驚かされながらも、とても充実した経験となったようです。そして、全員参加型の討論からは、研究ばかりではなく臨床や教育においても、今後、かなりの部分で両校の協力体制が可能なのもわかりました。

最終日の夜には、ダウンタウンのレストランで打ち上げパーティとなりましたが、なぜかワインが入るにしたがって、ヒアリング能力が格段に向上してしまう!?という日本人のおもしろい特性も見られました。パーティの席上、次回は是非日本に行きたいという声も大勢から上がり、Miller教授は本交流のためのgrant(補助金)を申請することでした。

今後も、両校が継続して交流していければと考えております。



## CBT

CBT委員長 中村雅典

さる4月30日、5月1日の二日にわたり、共用実施機構主催による平成16年度歯学系CBT試験問題作成のためのワークショップが開催され、参加してきました。試験問題がこれまでのA問題に加え、多選択肢問題2連問(L問題)4連問(R問題)、順次解答2連問(W問題)4連問(Q問題)が追加され、これらの問題の作成技術の向上並びに問題のプールが機構側として重要な作業となっているようです。

CBTの正式実施は平成17年12月からで、平成16年12月から平成17年3月或いは平成17年6月から9月までのCBTトライアルが最終トライアルとなります。正式実施の概要は、臨床実習開始前の学生評価のために実施する、CBTはトライアルによって評価の確定した問題(プール問題)のみで採点し、成績を返却する、共用試験の成績と各大学の独自の評価成績で総合評価し、合格基準は各大学が設定する、試験の時期は大学が設定する(6-9月、12-3月)ということになっています。

昭和大学から提出される問題の採択率は残念ながら決して良くありません。CBT委員会として、この10月15、16日の両日にわたり、昭和大学歯学部におけるCBT試験問題作成のためのワークショップ開催を企画しておりますので、多くの教員に参加していただき、問題作成能力の向上に役立てていただきたいと思います。



## 診療統計(平成16年7月分)

歯科病院長 川和忠治

区分	患者数	1日平均	前月1日平均	前年同月1日平均
外来患者延数	18,005	750.2	731.3	712.6
新患延数	1,202	50.1	49.1	55.7

## 行事予定

- 9月 1日(水) : 新設診療科開設
- 9月 4日(土) : 歯学部進学相談会(歯科病院)
- 9月 24日(金) : D5臨床実習開始(登院式)
- 9月 25日(土) : 歯学研究科選抜試験(社会人特別選抜を含む)・語学試験
- 9月 25日(土) : 平成16年度共用試験歯学系OSCEトライアル(歯科病院)
- 11月15日(月) : 創立記念日



次号は9月30日発行予定です。記事をお寄せください。